



13
4292
4



13
4292
4

釋迦御一代圖會卷之四

目錄

舍利弗目蓮歸釋尊法門
 聽世尊法助出罪囚獄中圖
 安陸說舍利佛偈圖
 世尊謁淨飯王若宮認如來
 世尊赴夕陽山圖
 阿難迦難優波離耶愉陀羅女得道
 世尊於初利天謁二世母君
 提波女冠世尊一死卒都波女功德

山本清之

Handwritten mark or signature in the center of the right page.

91-1439

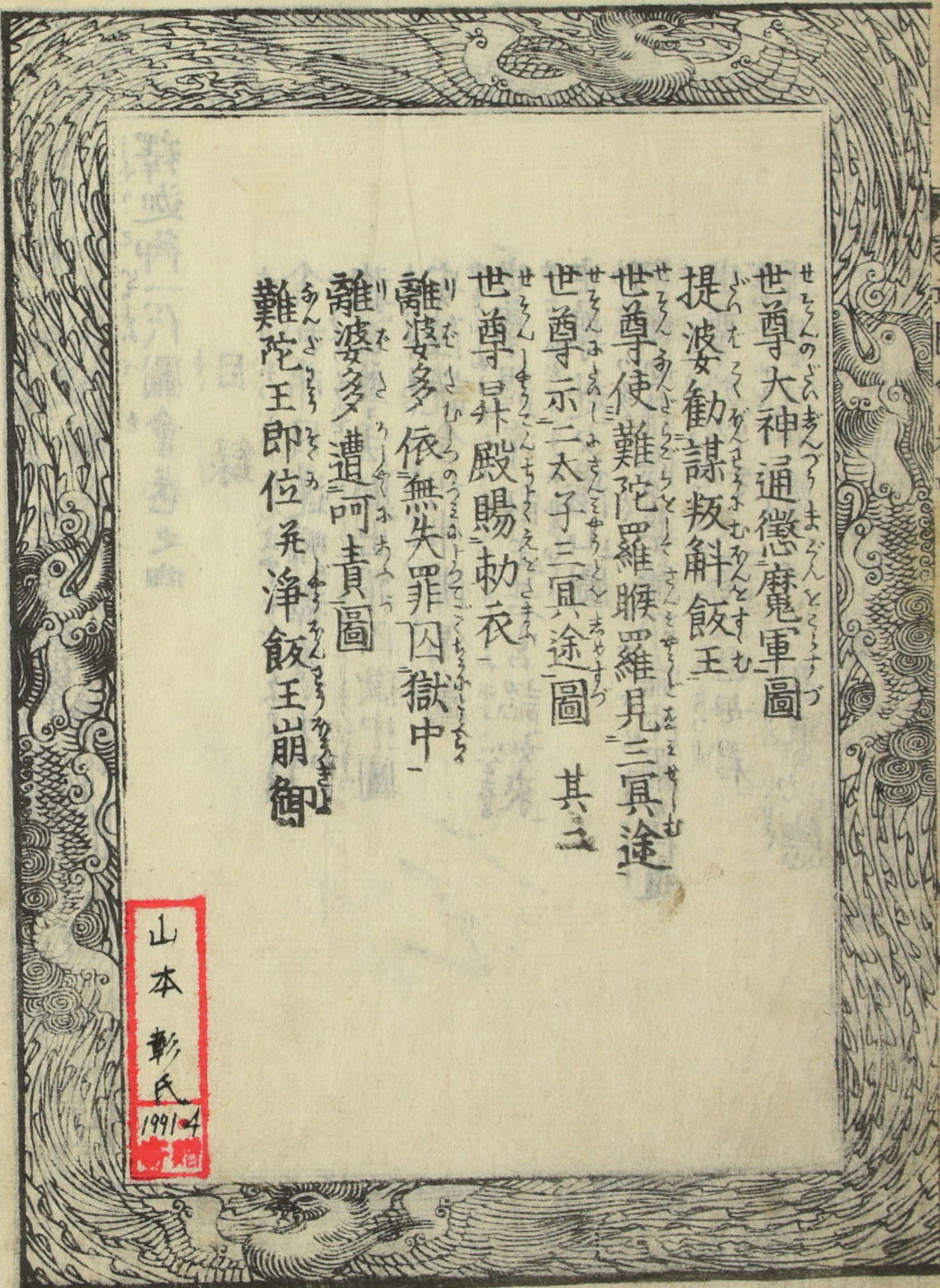


釋迦御一代圖會卷之四

舍利弗目連飯世尊法門

浪華好谷堂野亭考選

摩訶國の三加葉世尊の徒弟となりて僧となりて
 大系發た彼三加葉ハ皆法術あり就中大加葉ハ神通廣大
 其統法をばむと高儀ある茲ハ迦陵長者ハ長者あり富國ハ比者なり天性大
 善根ハ人々財財散貧者ハ賑ふと多ク此頃世尊ハ偈國ハ来り法を説
 是を釈尊ハ歎る如來感納ハ以て彼五百の徒弟ハ皆小積舎ハ移住
 其迦陵竹園積舎ト号國人ハ為小法ハ統ハ頻婆娑王ハ夫人ハハ緒大臣ト
 俱ハ迦陵竹園ハ結其統法を聽守あり歡喜踊躍ハ以て數ハ絶物ト獻せ
 らる王官ハ還テ牢獄を開テ罪囚を宥ハ大赦を行き々ハ人民ハ皆世尊ハ



世尊大神通懲魔軍圖

提婆勸謀叛斛飯王

世尊使難陀羅睺羅見三冥途

世尊示二太子三冥途圖 其二

世尊昇殿賜勅衣

離婆多依無失罪囚獄中

離婆多遭呵責圖

難陀王即位并淨飯王崩御

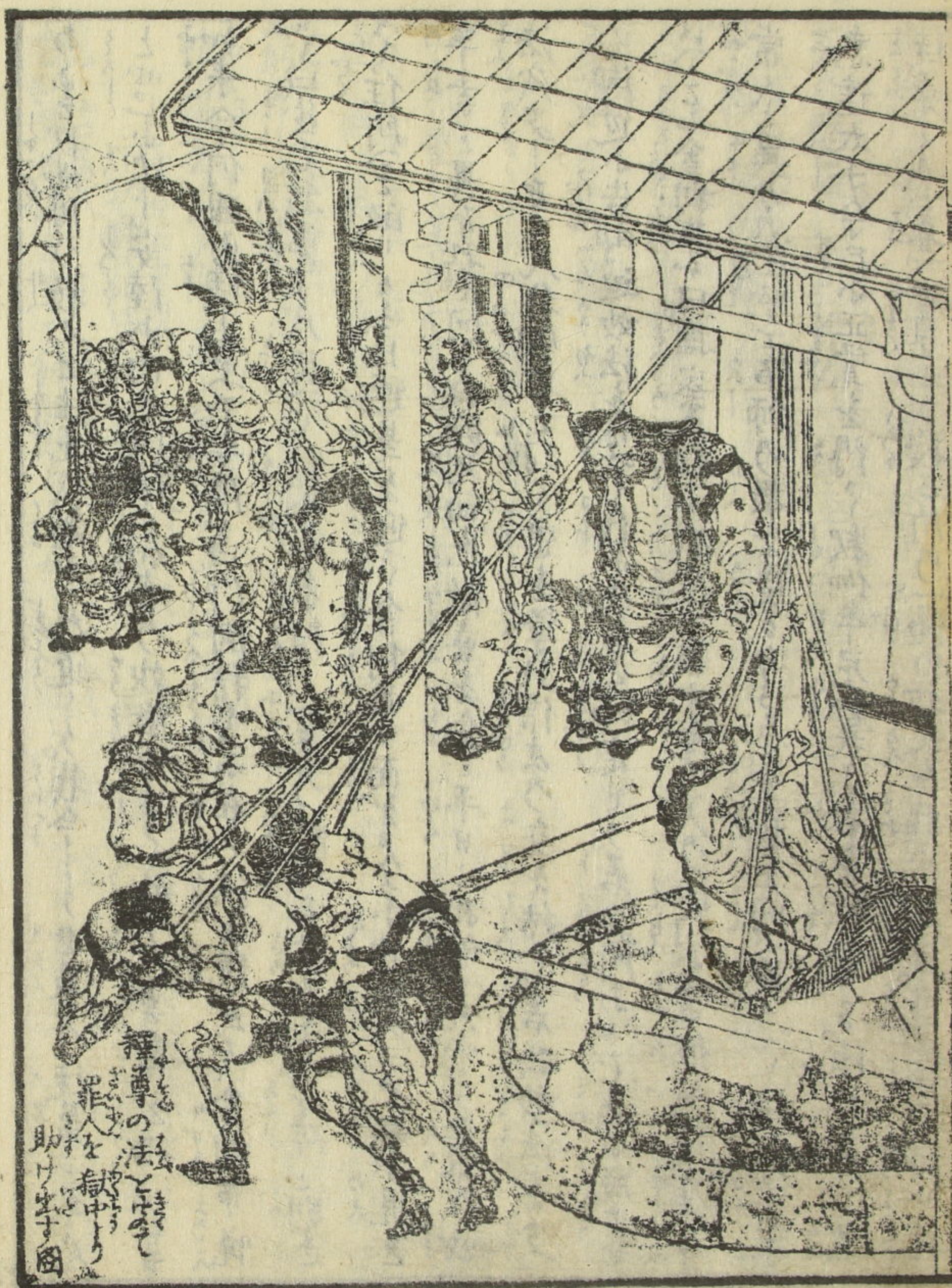
山本彰氏 1991.4

法成仰尊尊時小釋尊の法弟安陸汝門鉢を持市中入る各を乞ふ
一人の僧羅雅門小性遭ぬ此人各を舍利弗と呼ぶ王舍城の産門学の友目連と俱
小此頃之偈國小来り任と兩人も聰明俊才小く廣く書論小通し神通亦廣
大なり能及者稀なり然る小舍利弗今安陸乃托鉢を乞ふ人々其動靜乃
尋常なりを感し進て問曰你が為鉢新不出家せし者の如く不知你が師ハ如何
なる人なり名我何と呼如何なる法を教戒せしや安陸曰我が師ハ陀國乃皇
太子曾く菩提心を發し擅特雪山小登り不惜身命乃行を行を専十二年
遂小魚上真正乃音我悟りかたり名を釈伽牟尼如来と謂一切種智を得神通
究窮なり我が若年亦く学て日久くこれ如来乃妙法の禹一乃脱事不能
唯一偈を學り你が為小云云とを告ぐと其偈曰
一切諸法本 因縁生無主 若能解此者 則得真実道
舍利弗此偈を學く神心朗々如く心小思ら我が今日まて学し所ハ真の道小

あをを釈伽佛乃教とを生死成離る大道なり我今より世尊乃徒弟とあるん
と心に決し安陸小向く曰初く如来乃妙教を學ぶ物中乃雲霧を拂り
如来今何國小住し安陸曰竹園精舍小在法を説き舍利弗悦
び曰法を我弟子に從て精舍小参詣し如来乃妙法を學ん安陸と別ま
く任所へ皈りて目連是を迎へ舍利弗か面をん小怡悦乃色類小見是
平素と異なれを問く曰師兄面色歡喜を合し平日と相似さる必く是露乃妙
法成ずりか人我脚辺と問く道を學び信友乃交を結ぶ若我妙法を學
む脚辺小告脚辺妙法を學ぶ我小告すと約定せし若所ありむ我小説法を
以て乞舍利弗曰推察乃如く我今日市中入る汝門小遭彼威儀座席
常人と異なれを必く名師乃教を受るなり其故を問果し淨飯王の子
悉達太子今已正覺を得く釈伽牟尼如来と名を稱せし汝即ち其
徒弟なりと答へ世尊より授る所乃一偈の妙法を我小示せし是小依り神心清



守屋舎利持自縛
帶傷とく



權導の法とほきて
罪人を獄中より
助け出す図

なる事を覚へ徒弟と俱に迦陵竹園に到り。釈尊の說法を法門に皈せんこと
を思ひ。御辺に俱に竹園に結ぶる事と向目連大に悦び我悉達太子の大
名成步一履拜謁せんことを欲せんも未だ望成遂む。已に學道成就して程遠
く竹園精舎に法成統より天縁の熟する所あり我御辺に俱に世尊の
法弟となる事とよぶを舍利弗大に悦び兩人背く其準備成を乃に小なるを
釈尊に天眼通成以て早く是成知む。左右の羅漢小結して曰十日乃後必
二人の婆羅門徒弟を引後。予が此精舎に結ぶ法門に皈せん一人を名を舍
利弗と呼ぶ智慧第一の人なり。今一人を名を目連と呼ぶ神通第一の人なり
俱に予が道に推弘る上弟なりと仰るを如葉亦曰如來何を以て知ぬや。釈尊曰
予真正の道を悟り六神通を得ん。三世を觀通し物として知る事更なりと仰る
如葉亦感歎し。かゝるは是を信ぜざる所。安陸に歸り來り。弟子市中して一人乃
波羅雅門に體一傷を授けし。其始末を語りし。是必と舍利弗なるを。猶と

說法して衆生を教化し。衆所果して十日余成過く舍利弗目連二百人の徒弟を
引連り竹園に來り恭敬禮拜し。各名を通し。如來の說法を聽き。隨喜の泪
成流し。法弟とらんことを望ぶ。緒羅漢始て如來の六通を得ぬを知らず。讚歎し
て不止。世尊は舍利弗目連亦を為し法輪を轉し。四諦を説き舍利弗目連亦
歡喜踊躍し。薙髮して佛弟となり。阿羅漢果を得たり。斯く世尊は竹園の說法
畢。舍衛國の耶丘國波羅婆國亦を周行し。說法を以て性なり。如比羅南國、加
陀國の境ある波夏抵耶といふ市に到り。舍利弗を召て曰。予生老病死を厭ふ。故に
父母を捨て。心修行せし。今已に學道成就し。父母の國に近く來る。理見を以て。自
を以て。你伽毘羅城に到り。予が不孝の罪を謝し。龍顏を拜せ。八更を願ふ。れ。命
に。舍利弗。法命を領受し。神通を弄く。刹那に間に飛行して。加陀國の都に
到り。大光明を放ち。人民大に驚愕し。王城に淨飯王。其故を知り。諸
人を出し。其何者なる。此れ。此時舍利弗王宮の門外に來り。又手にて。諸

阿彌陀大徳何人か何の爲に此所未だや舍利弗が貧道八劫迦牟尼如來乃徒弟
舍利弗が如來は淨飯大王の皇子悉達太子方の王宮を去り檀持雪山の淨室
小難行苦行して真正の道を需ると十二年今已正覺を得て山出一切衆生を化
度し此國道へ來りて依て弟子成て不孝の罪を謝せしむ願ふ此旨大王の傳
奏しむるに官人悉達乃二字成せし且孩死且悦び舍利弗を引く朝庭に到り右の
旨を傳奏官小就く奏しむるに淨飯王三千年の挑の花咲海中の優曇華の開れし
心地へ以て朕太子小別り已に現世を相見せし能くするに十余年の間是之の歡喜勝
を勤かにし小豈んか人再び太子成んは是は夢の現くも歡喜踊躍小勝むるを
舍利弗成殿上小請て礼拜し以て尊者の厚情に依り太子の消息成すは小勝すと
即ち迎請の車駕を進せし不知如來今何里小在や舍利弗が曰波優祇耶小在て
專ら貧道を回報を待てし淨飯王曰然を尊者と俱に結招の官人を進せし夕陽
山青龍殿に如來の冥母故に耶夫人乃靈を鎮祭る所を先彼所へ法駕を請ひ

面謁すと下とて烏陸夷小五百人の官人を副車駕を齎し舍利弗と俱に波優祇耶の
市へ赴し其の月景城の御使を多しと太子学道成就し波優祇耶の長跪
わん使僧を以て對面を乞ふ小し結招の爲車駕を進せし先小太子小任下車
駕夕陽山乃青龍殿に到り如來乃法駕を迎せしと命せしは橋曇彌夫人是を
まがひ唯是言龜乃浮木小遭し如く余り乃更小嬉し湖小を以て鎮小新宮無野
瞿陀弥乃太子宮中小在せし時勤仕せし女官の勅命成傳へ久々中太子小見し
事りれを身を清くして參るに面を小嚴れ新衣二重に成贈らる是小依り女
官小悦び勇まると以て者なり其の痛くは耶踰陀羅女乃街上かり而して
如く太子出塵の後三年過る若宮を産むに小種を乃長鏡を乃橋曇彌
夫人小疑れを以て世に憂ふの小數れし若君と俱に無龜のの月日を送む
をれなきが日影乃花小異なりと雅有る事訪來る人なりて今般如來乃陽
山へを告る者なりを告る者なりを告る者なりを告る者なりを告る者なりを告る者なり

参り太子御望を遂ふの尊如來と仰ぐれは近き夕陽山へ來らせむは后
宮より官中乃女房連新なる衣を賜り各音龍殿へ如來の御迎へ奉る
せえ侍る此宮へして其賦衣乃まじらぬやと恨自告えん耶輸陀羅女も
一度悦び一度想ひかざる御更あはれ此宮中疾告あせむるは其更あはれ若
宮産れむをいへし御言を人々も猶疑ひあふるは世小持も想
ひ思召御衣の袖を絞る并小泣かひるは年頃待たれりし如來小此時見たりて若
宮乃御更あはれ上とて何時身乃濡衣を下るれと推し后宮乃御并へ使を
風小泣きしを太子学道成就しむ以音龍殿へ光臨させむは庶野瞿陀彌
乃二万も太子小仕へりし人々御迎へ奉るは可憐願へは妾も御免をとりて
とをんがし如來を拜まへしとてせられは憐曇殊夫人もさる衣小思召
これ心任せむはと回答りしは賦衣乃沙汰かりしを最面伏せり
如來小見たり然憑小若君を伴ひ令あはれ後夕陽山へ赴れはひる

淨飯王對顏釈尊若宮知如來

佛弟舍利弗ハ勅使烏陀夷と俱小波優祇耶(四)王命成報ドれを如來歡
喜しむは烏陀夷を近く召し別來の素情をの長途乃疲勞を休むは
ひる小を烏陀夷も恭敬礼拜し世尊乃法顔を見たり小も美玉の如くな
り貴層も十二年の難行小瘦黒むは昔乃面影ハ在がれは端嚴乃法相尋
常なりと二十五百の阿羅漢乃中ハ在を体萬星乃中ハ名月乃出る如くして
自然頭の低る心地し隨喜の泪小粒を沾りあはれ学道成就を祝しなり車
從曳半乗し小入更を乞世尊是を拜して仰るは予が身往日と等しとて
豈車駕小乗むとて難く止む退けりしは諸目連如葉們を顧み曰予今
般故國小到るハ思愛の絆小身をわらむと下化衆生隨縁真如乃為たれ女時
師弟の礼を除け日侶と成り赴くぞと神通を以て紫磨金光を傳り
緒羅漢といひ難行の姿と現し車やも乗むと草鞋を踏むと歩むは烏陀

其時彼羅漢手執神として片袖を採完示と笑ふ。不変真如妙覺無為衆生智願言
山滿と唱ふ。忽ち阿羅漢の形を轉じて三十二相八十種好光明無碍大覺知現の
法相を現し、其の御身より大光明を放白毫より金光耀々、殿中の七宝錦繡映
りて色彩を増ふ。浄飯王憍曇彌夫人其餘今なき疑ひ、衆人々堂上堂下一
小此奇特を多くあつて感嘆し、思ふを首を低くし、禮拜し、千五百乃阿羅漢も
座具をのぎて恭敬禮拜し、本昔本佛南无釈迦牟尼如来と唱ふる。是れ念ふに耶
輸陀羅女の嬉しきなり。我らも列と出はり、佛足を拜し、世尊の御又浄飯
王御母憍曇彌夫人を敬礼し、其の不孝乃兒大恩無比の父母乃慈心小恃り、宮中と潜
出出家子道せし重罪謝す。もふ約ありとせし一切衆生の煩惱を救ひ、極樂浄土
へ引接せし爲かれと怒り、去りし者、此推た者、耶輸陀羅女が宮中を出し、後三
年少行の所生なり。諸人々を其期小後、姓娘せし、疑惑を生じ、是非の議論
者をももも、耶輸陀羅女貞操無双なりと敢て行成織と者ありと下別離の期

小臨と彼ら胎内小指きて三年の後男子を生じ、と言はれ是世の不知所を疑念を生
むるの理あり、然とも因位乃予が子か瓜ん瓜んを錦乃片袖小對一偈を唱ふ、不
思議なるもあか心ち廿五言の妙文織方を如く現し、浄飯王手小採り見むと
我去後三年過可得善男子即是我因位為正汝生来大善知識
とあり、浄飯王大小讚歎し、其の后宮憍曇彌小見むと疑念初て霜乃如く解て後悔
慚愧小勝むを三加葉舍利弗目連以下も尊た若宮乃因位かを世尊と公しく敬
礼し、其の堂上堂下魚數乃人如来の神通力若宮乃聰明耶輸陀羅女の貞操を讚
感涙を流さぬ人々を多し、斯く世尊の諸羅漢と俱し、御母乃耶夫人の重位を祭ふに
陀羅尼を誦し、般若を行じ、吊ひ、生身乃如来高德乃阿羅漢の供養し、其の
をれを重現の嬉しき思ひ、天上乃樂竟(半)ふらち最の申へを覺へ、其後浄飯
王別殿小如来師弟を請せし、奇成供へ供養し、其の別後乃御物結り、其の歡喜
小勝むと若君其日より佛弟とあり、其の法名を羅睺羅と号し、舍利弗を女書筆筆直



釋尊夕陽山
 赴たすて四天王の
 諸天神守護の園

天四圖會天田

〇九



天四圖會卷四

乃師おと附むひる

阿難伽難優婆塞耶喻陀羅女得道

其後旬日之淨飯王昔境殿乃後堂を淨め法座と儲ぐ世尊師弟を信... 阿難伽難優婆塞耶喻陀羅女得道... 坐不簾次垂く聽受なり... 三千世界入天の中お如來乃上坐お立る者... 座お上りく統法一と倫言あれども世尊尚推返一と統法と中別り義お... 胎内お宿るより生着るると天地乃惠お承し... 闇お迷ひ昼夜を并ると能くを弟二お國王乃恩お人生く天地乃惠お承り...

國王聖明なりを父母中艱く能くを其恩お知れ地獄お墮落く猛... 火乃為小身お燒く乃苦患あり弟三お又母乃恩お胎十月乃深恩く... 又八終日外お出く世業の為小身を勞し母終夜養育の為小眠く此恩お不知く... 畜生道お生か得或は五昧不具の者となる弟四お師乃恩お人生長く教導... 人かへんを鬼畜小異なり此恩お不知く後身愚痴無智の者を生く終小惡... 趣小墮落を弟五お朋友乃恩お今師ありく教導とも良友乃捕をくを獲達... とも更お得く此恩を不知者へ慳貪無慚の者を生く天罰を並家る弟六お... 從類眷族乃恩お良友ありく過を正し非を練善道お導くも眷族乃助力あり... 下錢財錫く長久を不得此恩を不知く後身人非へたり終小餓鬼道お墮... 落を弟七お衆生乃恩お小良友眷族乃助力ありとも衆生其能を愛しきと貴... せむんも世お交る事能く此恩を不知く後身孤獨の者となり刀劍乃地獄お落... 慎でも慎むるは此七恩あり就中予弟二弟三乃高恩を並家りたりと須弥山

猶依く滄冥海の中尚浅し。是より又王を下置り予う身高坐の上在り。統法
をさす緒天の悪を結十二年の難行の中水上の泡と消ゆると仰ぐ。浄飯王
龍顔の感涙を浮せよ。実有るとは脚変る。是は増なる統法あり。予うどお理と
及ぶ。佛意小憚り。悼あり。是は朕ハ廣内史なる。如来高座の上り。御法
戒統おとく。已更が得む。玉座お入せむ。身小依り。世尊法座およ。世のひ
四諦十二行法輪を傳へ。般若の功德を説く。浄飯王の更なり。后宮新宮
及び月卿雲客。隨喜の泪をとも。その中。甘露飯王の御子。廣耶太子
会り。世尊の統法を聴き。あり。感伏あり。実や世路の悪道。日小近。止。殺心善道
ハ夜より遠く。厭ひても。生老病死苦なり。慕て。甘露の法味あり
唯願。如来我が法弟とす。殺心修行を。願ふ。世尊善来比丘
と曰。即時小剃髪。法衣を著。是は阿難尊者とす。尋。聞通を得。十
大弟子の一人。是は甘露白飯王の御子。梅陀太子。尊者。烏陀夷尊者。尊者。

佛弟とかり。是亦十大弟子の中。其他の時小比丘なる者百五十余人を及ぶ。茲
小耶輸陀羅維女。入る。出家得道あり。心申思ひ。八世尊再は宮中。四リ
おひふ。大王より人々の疑ひ。解胸裡の闇暗。これ現世の思出。是は小過を。若
君より得道。戒律を授り。菩提の道入る。舍利弗小就て。出家
の。願ふ。世尊。許し。耶輸陀羅女。大不敷。再。三。再。四
願て。止む。目連。其志を憐れ。如来免許。人更を乞。世尊尚。肯。お子
を。佛法清浄の道。悠久なる。更。誓。稲小
某の難生。逐小稻の秀。如。只菩提の念を止む。固。許。大
目連の理。伏。耶輸陀羅女。其告。唯。殺心の念を思止り。下。練。妃。大
望。失。深。敷。沈。一時。阿難。法。用。就。殿。門。出。時。妃。弊。衣。を。看。一。徒
跌。路。上。小。跪。跪。地。倒。阿難。發。其。故。を。問。妃。答。曰。吾。前。昔。提。の
道。入。人。更。を。願。と。金。如。來。敢。許。と。此。故。小。怨。小。不堪。尋。と。わ。ん。の。ひ。小。敢

と亦兩尊之位を阿難其志切なる感^ん扶起^し慰^めて曰^く深^く歎^れむま方^に我^れ如^し
 来^り錫^す願^ひ願^ひ脚^を望^を達^せ進^を進^を進^を練^り綸^宮中^へ回^り多^く諸^を世^尊お湯^を
 向^き曰^く曾^て如^來承^る過^去乃^は緒^佛皆^は比^丘比^丘優^婆塞^優婆^塞美^の四^部の衆^を具^し
 此^の統^を統^を此^の更^に実^に各^々世^尊曰^く素^に過^去の緒^佛四^部の衆^{あり}阿^難曰^く此^の
 何^の故^耶瑜^陀羅^女出^家得^道成^結紵^を成^す多^く世^尊曰^く女^の物^の感^ん安^ん亦^受
 安^ん此^の故^を怪^忽小^の紵^を彼^を八^の敬^を守^り大^の精^進を^な受^せ得^道を^結
 阿^難悦^び退^く耶^瑜陀^羅女^を招^く世^尊乃^は仰^を告^ぐ悦^び歡^喜不^勝天^地の
 誓^ひ八^の敬^を守^り大^の精^進と^す阿^難其^の旨^を世^尊小^の佛^勅を^受戒^師
 と^{なり}遂^に妃^の飾^を落^す比^丘尼^となり耶^瑜陀^羅女^此時^三十^七歲^盛六^衣過^ぬれ^ど尚^も
 散^残る^花乃^は面^貞端^嚴なる小^の丈^小余^の緑^の黑^髪を^雜羅^綾の^袂を^墨染^ぬ袖^を
 小^の久^六殊^勝亦^難有^る世^尊是^を覽^き善^哉比^丘尼^と賞^す小^のひ^ひ
 脚^名を^妙惠^と号^す此^時年^來妃^小奉^公せ^し姪^女五^十余^人の^糸心^剝髮^す女^僧と

かりぬ斯^く耶^瑜陀^羅女^得道^乃更^に月^景城^中を^えん^が憍^曇彌^夫人^怨も亦^も殊^勝
 思^召乃^は夕^陽山^の林^鹿小^の庵^室成^造管^を進^せら^る小^の妙^惠居^歎不^堪深^く思^成謝^す
 窻^室小^の授^任一^の苦^提惠^中と^四字^成顯^す額^をう^ち三^摩耶^行更^に行^ひて^と
 却^座なる^は女^人の^出家^一佛^弟子^となる^更ハ^妙惠^居り^推真^をり^是を^りあ^り
 阿^難尊者^乃法^情小^の所^を未^代と^も女^僧と^も人^者ハ^如來^乃脚^更ハ^不更^{なり}
 阿^難尊者^を供^養法^恩を^謝す^もつ^れり^ん
 釋^尊於^初利^天謁^二世^母君^一
 一時^世尊^諸羅^漢小^の仰^を予^往年^檀特^乃難^行終^時法^乃師^阿羅^漢仙^白你^の信^力
 小^の依^て実^母耶^夫人^上天^小生^成受^切利^天王^乃后^妃具^きり^と予^其時^ハ六^通を^得
 さん^信せ^り今^已三^明六^通を^得三^千世^界を^觀通^す阿^羅漢^仙の^言果^然
 一^の虚^から^と故^小予^切利^天小^の昇^り帝^釈天^小説^法せん^と思^ひ三^加葉^舎利^弗月^連
 阿^難伽^難富^樓那^優婆^離等^ハ予^小後^々昇^天小^の仰^をれ^を羅^漢達^大小^の歡^喜

其日遅しと待れども世尊八月一日より七日間修法あり満ちる日天門に向ひ魚雁
不生現神力不変真如妙覺圓滿今現在當來同示摩訶衍乘と唱へて迦薩如意
を以て虚空を摩むを奇なるか忽ち金色の雲より降り雲中八葉の蓮
華座許あり五十二菩薩來降あり如来師弟を引接し蓮華坐し終に切利
天と昇むはる緘如來の神通力不思議とす跡かりたり斯く世尊八諸羅漢と
しち切利天に到むは室室乃内院を御覽あるふ金剛妙色の雲中三字乃其室あり
り東乃殿の善現殿と額なり西乃其喜見城南の樓六字益胎禪現とあり釈
尊阿羅漢を顧むひ予が法を説くは南殿かりとす女時停ま在るふ東堂の
玉扉を開け飛行神力の天童數百人小團繞せし帝釈天出現しむ世尊を恭敬
礼拜し曰妙覺無為乃如來と云く來臨を辱ちむと天上下幸福何乃幸々これ
過ぬると拜謝ある世尊も各礼して曰此切利天來り三箇條乃專用あり弟
一ふ八五十六億七千萬歳賢劫三會の曉弥勒菩薩出現し未證の衆生と解度

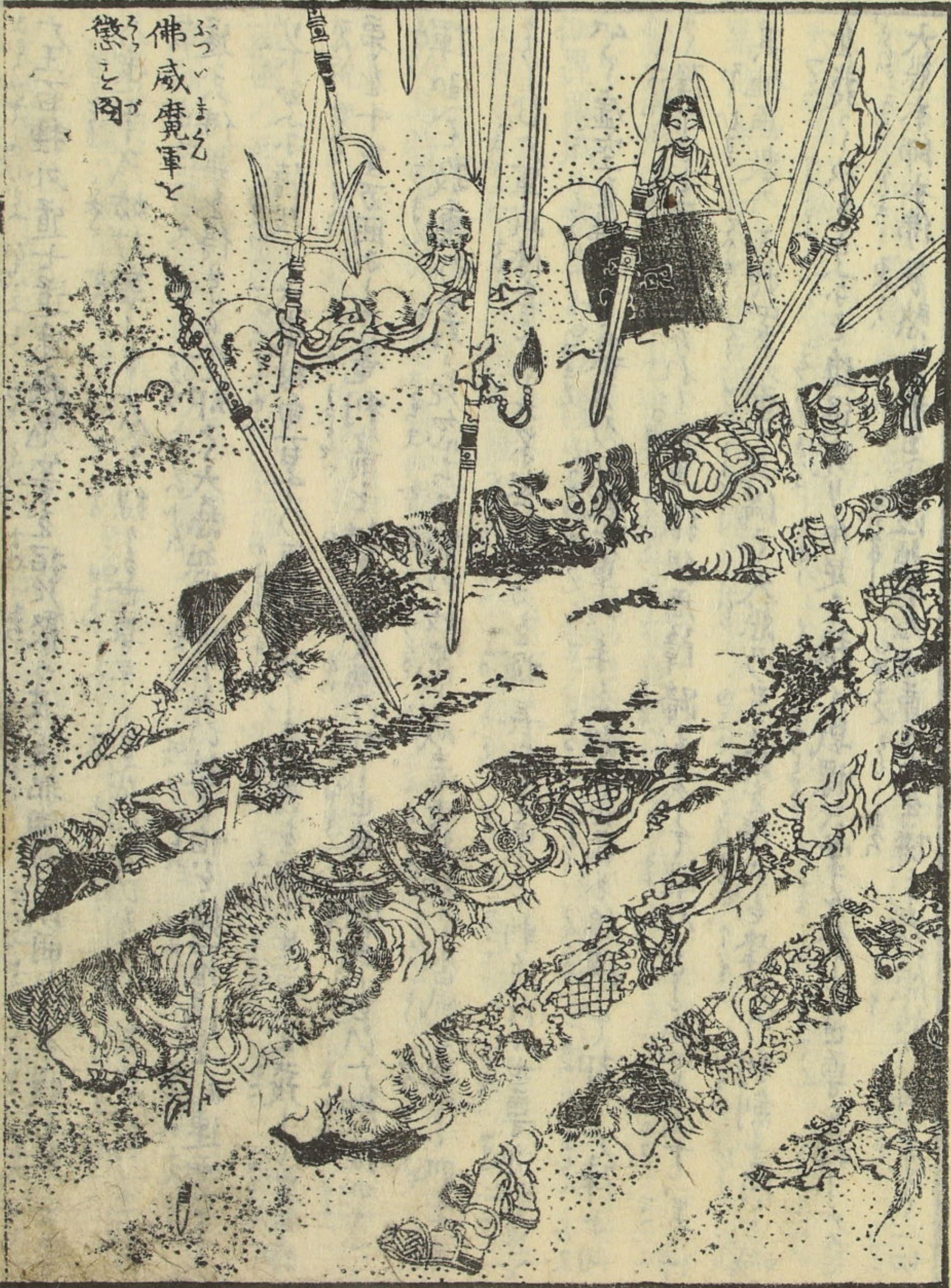
有るは時乃為前佛後佛乃血脉を授も人乃二ふ大集月藏經を附屬し
まらん為子小喜見城の任しちむは己乃前身の予が乳味の大息を蒙りたる
母中く在心報恩乃為説法しもらん為かりと仰る帝釈天不審思むひ
如來の金言疑ひなるふおと孫も后妃乃年八十才なり然も所生乃母と仰し
るハ如何なる證迹乃いやと問ふ世尊曰后妃乃因位の昔大伽陀國乃王淨飯王
乃宮妃不備り一耶夫人中く予が出生後七日の後迹去むは愛執乃間小迷ひ
む三千其苦患を救もらん為發心修行し難行苦行の功カ依て無明乃間
然出上界小生を受君の后妃不備りむり猶も疑ひむ兼て二世の對面あるん
時の證迹小予胎内小在り時乳汁を残り封たり今喜見城乃帳内小く乳房を
絞りむ乳汁送り予口内小通しん示し帝釈天奇異の思成なりむ
ひ天童が吟后妃の御許に如來の金言を傳む后妃ははれす思ふ思ふ
如來の金言と云帝釈天の勅をれも已更を得む九重の翠簾乃内三重乃錦

帳を講し素雪乃御胸を胸乳房を絞り而小乳汁糸を曳り如錦帳を
超翠簾を漏り世尊の口内小通り多を不測なる帝釈天由阿羅漢也此奇特
を凡ありあつと感思を首成依り傷仰ある后妃ハ歡喜ハ勝るを至喜見殿を
立出く世尊を礼拜し而ハ二世乃對面なり而ハ世尊由后妃を拜し而ハ其後學
益胎小入むく帝釈天小前佛後佛の血脉并小月藏經を授与し次小后妃の馬
小般若を統り是小依り后妃宿命以識善根純熟る永生老病死苦を免
る其御飲り余りの后妃捧り花を手折り如來小捧り願一佛淨土の引接を達し
妻小を固く結縁して拜し而ハ摩訶曼陀羅華是なり今佛前小花ハ献る人
ハ慚愧懺悔万徳圓滿大阿曼陀羅華と此文を唱り捧りたるなり諸天諸菩薩
納受りて一佛淨土の直至小到人と疑なり

提婆達多冠世尊 卒都婆功德

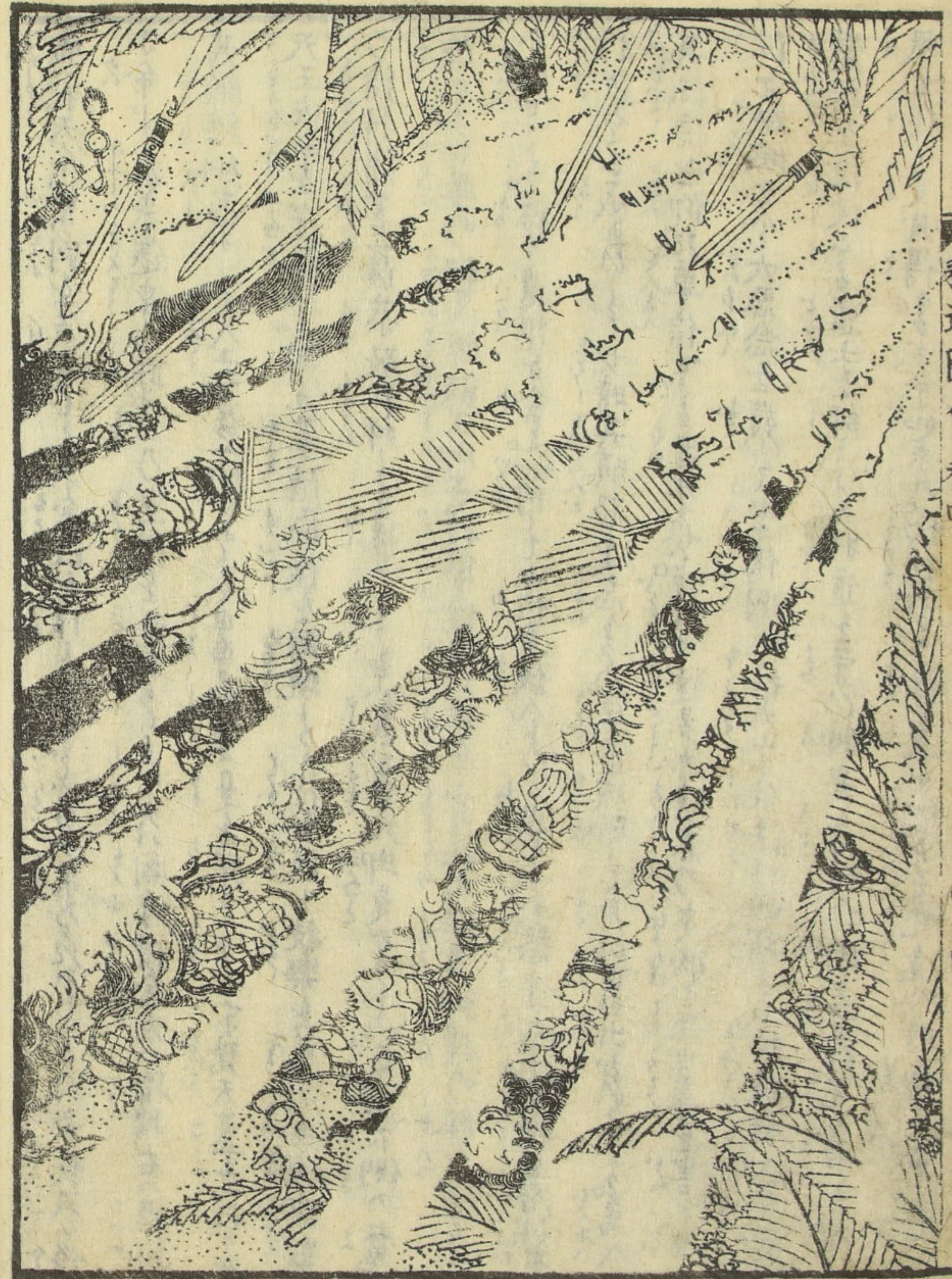
世尊已小慈母と二世乃向顔なり而ハ純法残る所なり終り而ハ今ハ下界(下)と

帝釈天后妃小別を告むるも小余彼を惜しむいふも苗果るを不わるは帝釈天ハ將
小命く如來還幸の路小三の室階を造らるる中央ハ圖浮檀金左ハ瑠璃右ハ瑪瑙
其雕鏤細密小く人エの及所小あを世尊師弟是を踏下小梵天蓋を執り四
天王左右を守護し二十五菩薩前後を圍繞し花を散り技樂を奏し其他無數
の諸神緒菩薩恭敬礼拜し送りなり而ハ實小尊也御更なり而ハ然る不測の魔
障あり世尊の叔父解飯王御子提婆達多ハ往年小弓始の勝負相撲の勝劣を
小敗せり深く遺恨を含み如何して仇を復んぬと思ふ小悉達太子宮中を潛り出
行方小成む女時其嗔怒を忘る小學道成就して再び世小出むり而ハ萬入
其法徳を仰れ尊信せざる者カれ提婆達多亦嗔怒の交胸小克世尊を害し佛
法を破滅せん大惡念を發し摩伽國の北真山小住法性妙頭と神通廣大能
魔神を役使する道士を師とす邪道を學び神變奇特の術を習ひ究り兩を以
風を招き更成得る今如來乃物利天より降聖を知是を究竟の時節とす十六



釈迦圖會卷四

十四



釈迦圖會卷四

十四

六百種外道七道速疾鬼等を招於聚波羅那國の鉄田山の平腹小池に世尊
乃還幸茲妨け害も人を謀る世尊早も是れ知むはかきも悪く外道は
遂に佛果を得せんと却て大慈愍を生じ此も怖を諸羅漢を引連雲上よ
り下す不待殺一天魔破旬百千の悪相を現し毒霧を降し黒雲を蔽して世尊師
弟を千重万圍おとす竜利箭を射る夏雨の如し世尊微笑しおひ大伽薩如意と
揮むは數萬の箭を忽ち五彩の妙花と成毒霧は却て香風と成ゆ肌を涼
くく大軍此体を見ん大の怒り鋼刀を揮長戟を回し斬逆は世尊亦如意と
以て虚空を拂むは數万乃刀戟大軍の手を離る空中に編滿して却て大陣小向
く降下して雨の如くおれ大軍狼狽周障障を及して逃入るも小四天王十善神
其他無數の天將四方八面に充滿く大慈乃弓箭を張或を降す乃利劍を閃り喊
を發し攻まふを進退究り手足を張く戦慄只掌を合して世尊を拜し大慈
大慈本師本佛哀愍を垂むはと法慈と世尊是を憐むは微妙の御声なく一切

如是大慈師緒惡莫作衆善奉行共益横難と唱かむ刀戟大軍の手小回り緒
天弓箭を弛まし大軍深く慚愧し身を隠し形を消し逃失れむ提婆達多も惆
果唯一身となりて這て逃回り本國小閻篋り人お面を合得と深く身を耻る悪
念は猶弥増く如何して世尊を害せん日夜惡謀をを甲し世尊は軍をさし以
伽毘羅城小還幸あり夕陽山に改く大阿耶山と号し清瑠殿を梵刹して切利
天正寺と号し初く又母報恩經を説くは愍曇彌夫人乃為小菩薩大阿般若經を説
むは烏將軍夫婦乃為小我心報謝經を説くは其他月御雲客の為小種々妙經
を説くは佛法小皈依する人益多く愈御弟子乃數まきりたり其後世尊は猶も
諸國の惡種を降度せん諸羅漢を召具して大伽陀國を立波羅那國をこりて赴
ふ所小提婆達多國中の兵を募りて郊野小埋伏し如來師弟を害せん謀りたり
三明六通の世尊早も是を知むはかき猶も体ふる諸羅漢を後へ野徑を過り
お人提婆達多と人となり號炮をちく仗兵を指揮するも二十萬の兵馬一も小提婆起

釈尊師弟を百重千重に取圍ひ其前放射ること雨の如く刀劍乃霜を降し其攻
進む然も世尊及び諸羅漢乃身より金色の光を放り日輪亦向う如く定ふ
姿をみんとむる隻熊を其前へ悉く羊途より飛回りと提婆が軍を射るは
如來乃慈心小依て一人傷者なく刀劍を揮者ハ金光小眼眩く近付得ずれ
前進する者も世尊乃慈顔小向む慈心忽ち善心となり我ちも刀劍を捨て
恭敬礼拜するも百千の罽陣自解し安くと波羅那國へ赴たむは提婆
達多大氣が焦燥自身三叉の鋼鎗を提金翔鳥の如くまき追蒐もも小
前面乃大地裂く猛烈と燈出焰提婆が身を焼くまきも大の殘たま
道をえり進んとれむ前面の地俄然とて大河となり波瀾を奉り深たると底
穴あきと是小依り提婆牙を嚙み憤るも世尊が追こと能く手放す
て本國へ引回しんと斯く世尊師徒は提婆が難を避く波羅那國高盧山乃
麓を過り小高十丈乃黄金乃率都婆を去り世尊傳多し礼拜しむ

一見率都婆永離三惡道何況造主者必生安樂國と唱へ兩眼小脚淵をぞり
大如葉見もろく不審し率都婆六十地等覺の功德あり承るも妙覺無為
乃如來偈仰礼拜し其のまを御落涙あり如何なる脚妻小やと問世尊曰如葉の
不審理かりまかり此率都婆小就く統率となれ物結あり此波羅那國の都城
を波羅斯那城と号し今より三生前乃王を慈明王と以後妃を好香夫人とす
せん金色太子とより皇子在せり又慈明王因位乃戒行拙く難病小悩伏し
臣下高議して普く名醫を需り療せしむるも女小功驗なく愈病苦を重く宿
陀山乃阿宿部仙人慈明王の病を看此病を平愈せり又欲せし生くより以來憤
怒を發せし仁心深く人の意を破らざる人の生膽を取らざるも即時快
復し善く奏を群臣是成ゆと曰ふ人を生く生涯憤怒を非發せざる者有る
とやのりや善惡小就く人の意破る者猶有るを世小死藥を求ん
たり又王を流汝川の北岸小捨太子を位小即ち率と議定し好香夫人遣妻

於皮むひく深く歎たむ太子の子細を告ぐ仰る又大王悪病小卧む臣下の徒流汝川捨ちんを穢たたく國の旋りも争う大王一人を捨ちん思入吾病も俱小流汝へ赴くをたれむ永く太子と別れん雨々と泣き太子は百生る以未怒む憤らむ入る心を破る者の生贖を用ひく又王の難病愈むり進凡是を求るも何と捨ちん及んて曰く夫人大い小悦びむ此を求る進廿むく宮中四り金太子近臣小密意を云合其夜自身胸を裂て生贖を引出る臣下小死し又臣下八洞を隠し太子の生贖を告入る体あ大王小献る王歡ぶ即時小用ひむ小仙人の因果して違ふとさる難病一夜の内小平愈あく上入り下萬民小悦ぶ限り後ゆく太子自己生贖を裂出でて覺去あり更露れ又王母夫人天小怨む地小歎た深く悔む其甲はなれむせり太子の菩提乃為小く黄金乃率都婆二千本鑄させ二千國小渡して供養あふ夫人も同く黄金を以て觀音大士の像を二千鉢鑄させ是も千國小渡して太子の後

生善所を祈り此功カ小く金色太子ハ予が又降飯王と生も四天下乃富を極えむり然む又大王因位乃率都婆を感涙をさるるゆゆ抑率都婆ハ五智乃功德あくる五明神力乃尊形なり如葉向く曰何を五智とつひ世尊曰東ハ成就作智少く下化衆生乃神力あり本地瑠璃光如來緒法通カ乃徳を具隨縁真如乃形も鬼神魔佛十畏化現の利益も南ハ明觀作智少く出世々向の神あり本地光明王乃尊形色即是空々即真如乃相好無明乃闇を照し不要真如乃利益も西ハ平等正智少く本地阿弥陀如來緒法引導乃功德を具縁縁縁隔りも攝取乃利益深く実相真如乃相形も北ハ大日鏡智少く本地法性如來十畏依正乃陣内を清淨堅固小具緒法成就乃功德有く魚導真如の相好り中央ハ法界他生智少く真明堅固功德成就の神あり本地阿閼佛座禪思惟の妙量也鮮脱真如乃相好なり以上を五智乃功德と縋り亦五明ハ所繕空風大水地是なり天地を以て鉢と緒法を以て種と緒縁を以て因と緒行を以て果と

法苑珠林卷四

卷四

高麗を率都婆を度月時八千方乃陣内諸法乃道理諸佛乃依地諸願の功
徳を所不明なり東八木鉢青色形四小南八火鉢赤色形三角西金鉢白色形半
月北八木鉢黒色形四中央之七鉢黄色形方なり此妙鉢を縁く法成就行
成就願成就神速成就く成佛とく佛小四種あり法佛化佛理佛直佛是く
如是功德廣大重く他の教をより即心即證乃功力わる率都婆女乃緒佛出
世乃妙法唯平都婆小箒きん故小率都婆を拜する六一見率都婆水離三
惡道何況造主者必生安樂國と唱く絶つて阿羅漢感涙小甘美
難有率都婆乃功德多く各恭敬拜し世尊小後ハ波羅耶國へ赴き
提婆達多勸謀殺解飯王
解飯王乃太子提婆達多造般由世尊乃威神力小控ん謀計画誑と成るれも
大小望を矢ハ國へ逃回り心快くして樂まき只管佛法を妨ぐる謀計を廻
し熟然と思惟く樹を拵入と欲する時ハ其技を前入り其根を断す不如

我が釈迦と亡滅ん命此理ハ以て誰ハ父解飯王小謀殺を勸るハ迦宿國を伐て淨
飯王を弑せむ釈迦自念滅亡とて亦造大惡心を生し解飯王小見く云るハ頃
日承れむ迦毘羅城乃淨飯王七星の政乃節臣下を集り議せらるハ朕が子釈迦
無為正覺乃如來と成て天上天下乃至尊小然も未居住乃國ハ朕が種族ハ
中ハ小多施奈羅國乃甘露飯王尸良摩國乃白露飯王伊汝那國の解飯王是
ハ種連枝とくと蚕朕が為小弟より厚ん然も年々の朝貢ハ以て更かり時ハ奉觀
く慶賀を述べ死小独解飯王の野心を懐欠く衆觀せむ驕奢放逸小耽り
民を重罪カレを殊罰し其子提婆達多亦惡逆無頼小して生靈を殺害し
淫酒小行を乱る是を捨置時ハ下民怒り叛れ遂小逆乱乃緒を引出く國家
自他他人乃為小併吞せらる不如朕兵を發して其罪を問解飯王是く殊
く伊汝那國ハ取其を敬尊小ハ香華法燈の料とせむ國家長久子孫繁昌
乃基からと仰出される小群臣是を草給く承伏して暗小征伐乃准備

のいし其のえのり且は守閑たる一夫たり構て御由断いしと弁古巧小緘しや
 わご流しを委素り子小迷大親乃りかみ解飯王提婆達多を聰明睿智の者なり
 と思ひ愛ふ溺し妻たれを是を戒とて大い小孩に淨飯王六より聖主ゆへ不仁
 う成敗ハ露れぬ由那し小何故と暴悪の君とかりかひんと奉を握り慣ら
 提婆女又か怒激り休をく仕果たりと悦び又告り曰く我妻悉達太子天魔の爲
 小惑され官中成るれ出深山入く外道を師と邪術を弄釈迦如来かんと自抹
 一諸國を往歴し怪れ法を流邪道を勧ふより愚亡者乃男女彼が妖術小眼
 を味き九年有小魅れ親を捨妻子を捨剃髮浣衣乃姿とち者故採とる不
 追あんと已小甘露飯王乃子廣耶太子も累が徒弟とかり阿難と各呼白露飯
 王乃子補陀太子も釈迦小惑れ僧とかり伽難と称と二國乃皇子と猶如斯
 かれ増て況其餘乃者小於老下人主小暇を乞ふと剃髮太子親小告ふ不及
 浣衣を着し皆釈迦乃邪道小入ゆるを其主其親中却て是を殊勝の吏と心

得主六下小希成供親父子成礼拜と然小依く僧と成勝る妻と思ひ情思由
 不顧釈迦の門小飯とる者我千萬乃限をた思男中由費心修行を勧る者以
 一争う大恩の父母を捨妻子を捨血脉を断子孫を絶と如た惡道小入るれと
 増耻しきり即し以是是等乃更釈迦の耳小入恨を會し淨飯王諒せしより此國を
 攻亡とる死結構由出来し小を口と出る小散と能辨しれを解飯王培怒り悲
 九釈迦行跡の原渠母チ耶天魔乃障身少く姓娠三年間孕し其胎座
 乃時由種々乃怪異を現し右乃腋下成蹴破く出生せし將小親を殺せる鬼子かり
 然も淨飯王由大障乃為小昏迷せし其仇を忘る養育せし悉達ハ其重恩を
 不顧擅小官中を出憂愁をく多更十數年適還り来む姪し法を流布し
 愚俗を惑し忠孝の道を廢すむ是真小亡國の教小千歳小毒を流すと
 緝ぞ好々我天下萬國乃為親凡か淨飯王を伐亡し釈迦師弟を屠殺して未
 代邪法を信む者之の滅せんと飽ま提婆が妄言小惑され又子孫を承合せ

是より時々臣下成聚る軍議一兵馬を網煉ともわど心ある輩大の疾死辞を
錫く風練をれも解飯王敢練を不用一國小陀國攻伐の準備成なり小淋
雨降續く更小暗る日小緒所小洪水溢る官家民家は為小漂没道路水深
た更一丈小余り緒方乃往返船をて八通むる更能く國人雨濕乃為小患病を
を生下家を戸小悩所なる小を解飯王大の憂の攻伐乃更さる更雨を止むる法を
需むるの外他更方提婆も愚果已師法性妙顯を請けて亦雨乃法を修せし
むと虫其驗なく愈降つた々淋雨三月小及小百草根を断大飢饉となり國
中乃困窮磬人方なり是偏小教尊を害せんを皇天乃惡之故方なり智
臣亦種々解飯王を諫る小女小懺悔の心生下小陀國攻伐乃念を止自已罪
を天小公誠心小付られ其赤心成感納有久徐く雲霧雨止れ國人小
て白日成拜一回生る心地で悦こ限なり

世尊使難陀羅暎羅見三冥土

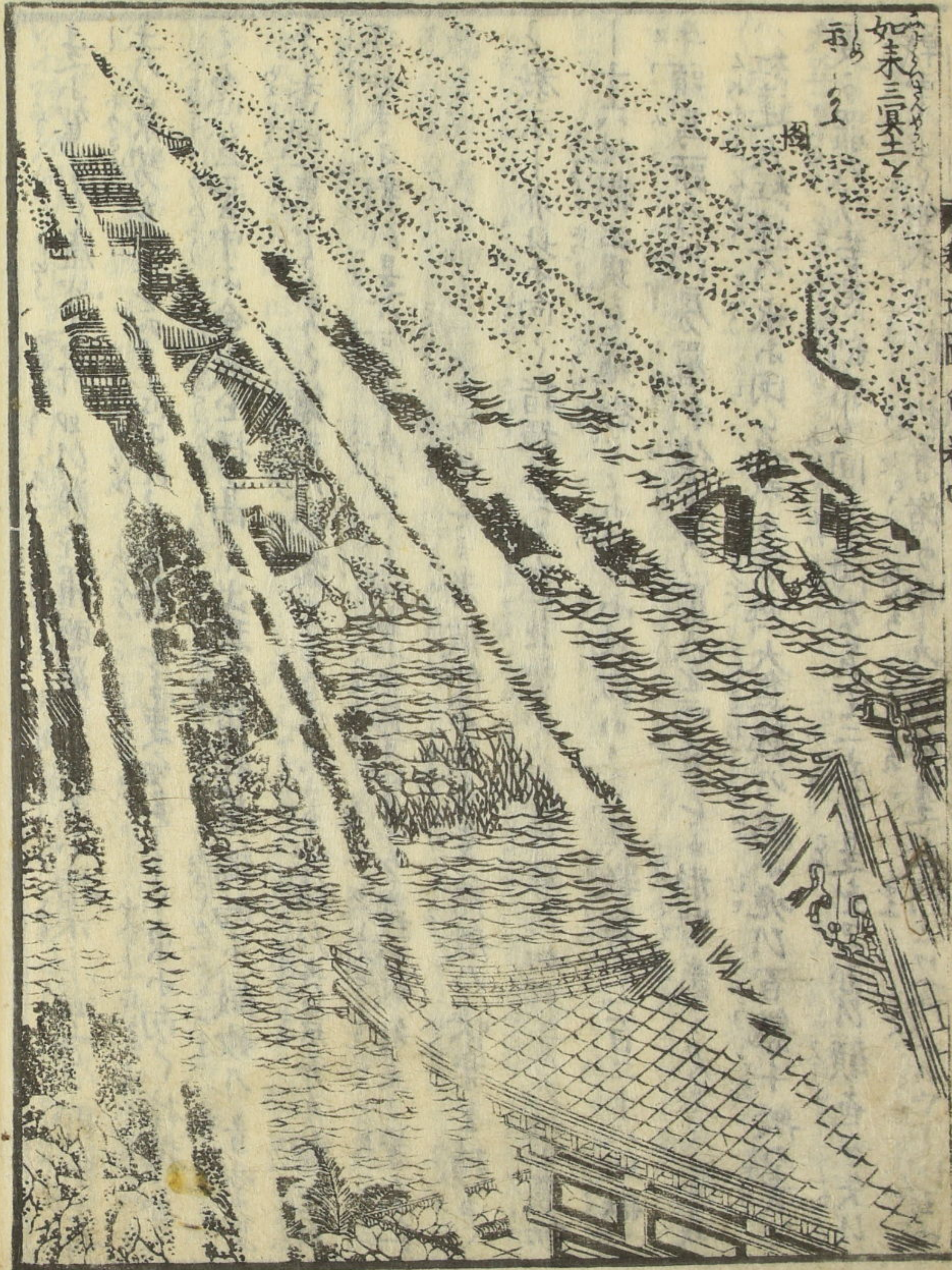
世尊八波羅耶國の統法終り夫より緒國を回りと衆生を濟度しむ亦ナ
迦陀國伽毘羅城(回)の二百五十人乃阿羅漢と俱小忉利天正寺小住し
九月十日より其教三昧經を説む小緒羅漢不如法行如律行如実行の三行
を附屬あり其年卯月八日より又母報恩經を説む浄飯王橋曇弥其外
新宮女官百司百官如惠居小至る小法座小系列し聽せり冬隨喜乃
泪を催し多緒説法終り緒卿法座を退た商議々々如來這國小還
む小ハ海中の優曇華乃開小等々國中ハ之更方り近國遠境々々如
來成偈仰し其れ萬乘乃宝位小即なる小天下信泰平小萬國從衆死
國家乃采萬代不易なる小此音帝小奏受廿八如何と十々小是の目
出度経儀方り其小勝る長久乃良策ハあり疾々其音奏はる小衆議
一致緒卿袖を陳し赤肉の如來脚纏位なり其を死音奏され浄飯王
殊更小龍顏麗しく笑いける針らひなる小朕も兼く此更を平小願ハ如來

小王位然讓るるを生前乃本懐死後乃満足是亦不違と思ふ如來の深意
 於量りの未口外せしむる御等已小朕が常願の如く衆議一致とる上は如
 來の御時より聰明睿智よき世を大王とめたり百司百官民間賤の未
 切利天正寺(奉向)に世尊を拜錫し告ぐる八偈も君いまも衆心達太子と呼れ
 玉ひ御時より聰明睿智よき世を大王とめたり百司百官民間賤の未
 太子宝位不就むる轉論王乃威德隆ふる四天下臣伏し萬民太平の
 樂を極むる天晴早く成長なり玉うと祈りし不意宮中成潛虫叢心修
 行をせむ玉を上一人り下萬民を怨歎乃爾小迷日月乃光を失ひ心地
 難行若行乃功を重無上正覺の如來と現し神通自在を得玉ひ還
 幸むる東海中乃優曇花乃開し一國乃悦み此上萬人願ひ
 小八君轉論王乃宝位不就むる萬機乃政を執せ玉ひ國富民栄大迦陀國八萬
 代不易の般系昌小く御又大王平日小此義を願ふ如來乃深慮を

量りの玉ひ臣等小紹命し御即位の儀を勸りたり玉ひ所おの
 是御承引り玉ひ臣等が幸福何事か是小違ひる冠を傾け口
 揃て告ぐる世も熟中口く仰る御等が食議理り持ふ又大
 王乃倫言とあれむ孝道と以人望と以心く背かす然あれむ我
 う一生乃一大事ハ摺特雪山修行の付已小究り即位乃妻ゆき妻かれ
 玉ひ予が想立一大願十小して其二をも果さむ此大願満くは
 左も右も力を盡し先緩々妻を謀ひし不倚不逆御許小諸御達
 按小相違しなから強く勸りたる事不能願くは大王(即孝道臣下)
 哀愍をこれ御願満玉ひ御即位なり玉ひと辭を遺し退散た
 り玉ひ世の何れも思ひし同連を以淨飯王(奏させ玉ひ)若君難
 陀太子并小羅睺羅が為小説法のゆ此方(落させ玉ひ)母公橋曇弥夫
 人其餘好容芙蓉雨夫人新宮女官も聽使及んたり紹命なり玉ひ告さ

世妙是亦依淨飯王より三臺乃后宮新宮文官難陀太子を先不
天正寺へ結ぶ妙惠比丘尼も羅睺羅者を誘ひ去り比丘尼を招て
法座小者妙世尊二千五百人の阿羅漢を集へ自己獅子の高座
小上り説く。これ人々心有る者も智を説く者も利根者も心
心利根を利根者として心も有る者も有る善人として心も有る者
も利根を愚人と号し此他小三重病人も三世諸佛の慈願も漏れ亦
慈願不可も大慈小捨れも世を救ふ者も世を救ふ者も是も
漏れを結縁する者も五重の傳へ五法界教の相傳へ号し是も太
子及び吾が兒の心成用た智を開く人をも是も事有る難陀太子
羅睺羅者者の御手を取て阿羅漢如意を以て虚空を三度摩たかへ
か二人の太子獅子座を離れ虚空小昇り形も人々をとり衆人大
小説く何と弁る事か世尊其問十六御弟子と俱小淨雲を招下し

是亦駕く虚空小昇り難陀羅睺羅の二太子小指示し即今三妙
主の景勢を見たり心小記し失念も是も東小向く指揮玉へ
を勿心然雲中金殿王接高く出現七宝莊嚴端的小微妙乃音樂皮
え香風薫りも諸天人快樂も是も心清れ光景なり難陀太
子如來小對し是は何と申所小やと問世尊曰是を幾心妙智と号し仁
政を布民を恤し三宝小皈依する者彼所小生を受諸般の快樂を結る
と教示し亦北小向く指揮玉へを忽然雲ひけ霹靂の如く音天地小震動
し十八地獄出現し一地獄ごとく十八小地獄あり其數都く二百二十八地獄
牛頭馬頭の阿房羅刹億萬の罪人を呵責する形勢悉く是も是も或
ハ紅蓮大紅蓮の水小閑れ或を焦熱大焦熱の焰小喉ひ百態千般の責と
受る罪人の苦患刹那が回も止河なれも二太子是を見かみ顔色を失ひ
戰栗し如來の袖小執着偕も怖る形勢是は何と申所小やと問世尊



如未三冥土
再之

世を曰是を方便化身と号け。悪政を絶一民を屠げ或人を殺害一主類
を屠殺一悪業を重一者罪の極重小後以彼所不墜落を怖て怖を
教示一如羅睺羅者問云。許ま罪人の中の中彼猛火の穴に墮り
んとこれと不脇叫んとこれと声出と。昔け小んえと。如何なる罪を造り
一人也と問云。世を曰渠ハ儀伯仙無見仙と。二人の道師あり。予ハ母
乃胎内在一時馬將軍と。予者の死小應。予が母摩耶夫人を納伏。出産の
道を閉塞。罪不依。作か。地獄不墜斯の如く呵責を受ると二十余年ハ
今ハ救ひ得と。如何なる罪を造り。初念。無見儀伯の靈鬼徐小大元
を這出地獄を離。漸々小近着。大慈大愍南无本師本佛釈迦牟尼如来と
唱。合掌礼拜。撥消如く小を失ふ。二太子益如来乃方便力を敬ひ。と
あ。世も亦西小向。指揮云。忽云。雲間小極樂淨土出現。七宝の堂塔と
由。魏々然と。光明十方を照。化佛報佛金光光明の臺。臺へ通ひ。相

好意詞也及これ。二太子信心肝小銘。是ハ如何なる聖所小ハやと問云。世を
曰是を法性法身と。慈心修行の功を積一切衆生を濟度と。水
生老病死を離。彼所へ往生と。然も生前の行小因。或ハ方便化
身土乃苦患を受。或ハ慈心妙智土乃快樂を受。此理を考。心智と貴
これと教示。如意を以。虚空を拂ひ。即ち夢の覺と。二人乃太子ハ
一瞬乃向小世。羅漢と俱師子乃高座小降。思議と。由。疎なり。予
斯く世ハ富貴那者小命。三眞土乃形勢を遂。小統せ。其後自己
大慈報謝。經を統。五位七性五常七樣等。積。説法。以。而。仰。ハ
惣。人乃子と生。小四種乃品あり。一曰。有本願乃子。是。因位。二曰。戒
躰を過。其生。子。三。宝。小。結縁。一。三。眞。如。の。道。廣。く。上。未。善。提。乃。切。德
を重。又。母。も。小。無。上。乃。位。小。五。を。紹。り。弟。二。小。曰。敬。来。乃。子。兩。親。小。孝
あり。六。親。小。礼。深。く。外。ハ。五。常。を。乱。さ。内。小。三。宝。を。敬。ひ。供。養。と。を。紹

大正四國圖書刊行會

一書

リ弟三小曰来憐乃子因位乃戒行を造りて犯法罪命なる也（小生れ出さず思病小惱二親小敷をうけ自茲と貧窮乃身となり短命なるを縋り弟四小曰盗劫乃子因位の悪報小依り生れ出さず我慢心強く兩親師友乃命小後ハ善を悪と悪を好む終小ハ刑戮小身を亡ハ骨肉葬る小地を縋り予難陀太子を見る小正しく敬来乃子これ此國乃縁を受十善乃位小即此ハ國家昌平や萬民安穩なる也）。緒卿より此意を悟り他の人小讓位乃汝汝有るをぞと示し其日乃説法畢を淨飯王宝篋の裡より出御あり実難有如来乃説法也胸中乃雲霧霧をり今ハ王位を難陀太子小を讓るなりと勅し難陀太子ハ三冥土の景勢を眼前小見しとぞ怖く發心（心せまやしく思召さる小淨飯王讓位乃勅命有るを心小發縁を生ず是此の答をたし）。又世々早々其意を知り曰さるハ御身三冥土を眼下小見る其發心修行を欲しむと奇特かれも見る物小就て意乃動を見我の迷ひを号して

緘乃心小あざむ只出家乃望を止り帝位小即仁政を布む（自出孝道之其功カ即ち三窟乃結縁となり正覺を得る期有るなりと練む小より難陀太子佛智乃端的なるを感下遂承伏し又是小依て淨飯王より諸卿由大悦び如来を礼拜し其日法座を退出しむ）。世尊昇殿賜勅衣淨飯王ハ世々乃説法を聽せあり難陀太子小讓位有るを小睿慮（定かりむ小就て世々乃法徳を崇むる）。又ハ王宮小結して供養せむやと切利天正寺ハ勅使を立む（世々）。阿羅漢小昇殿あるを告せむ世々慎む勅命を承りむ（十大弟子十六羅漢一千五百乃比丘一千乃比丘尼を召具し）。忝内ハ兼て淨飯王乃紹命より官を宮殿小忝列し如来を待たり中官之城外（）。迎接小出下官を天正寺より迦毘羅城まで乃道路を洒掃し不淨を拂せむ（此更兼て隠れ）

なをれを國中の貴賤老若其形相を拜んと香を焼花を捧り路乃西
迎小群りす分の地を中残さむと居らむびより茲小斛飯王乃太子提婆達
多之疾是を定む先由懲むとせざる行道を妨んと惡外道をうごひ
迦毘羅城あり闕の中空中の四天王より五十二乃薩婆百千乃天將如未
乃行道を守護し玉を迎りし由近著得む借世より八千二百乃四維漢を二
行小分ちし先に進ませ二千乃比丘尼を二行小分ちし後小續させ世より八十
大徒弟十六羅漢小圍繞せしめて中央を歩む一迎接乃官人由二隊小分れ
る前後を致言周り管絃を奏し通行と路上の貴賤と如来乃形相を
拜しむり感涙を流さる者なり斯く世より師弟宮中入玉を上官の面
々迎接し致乃玉座に請下なりね浄飯王乃難陀太子を従へし出脚の上世
尊小脚對顔ありし泰内乃疲を勞ひしふと如来由礼拜し帝息と深
く緝しむ其日月景城乃橋曇弥夫人入り女官を以て奏問有るハ如来

の昇殿ふと難有御ま小の法衣を献りて想さむらふる睿慮を伺
ひなりいと告さむる帝歩乃法衣を進せしむる更むれども如来往年
檀持修行乃より羅殺乃淨衣をども不淨乃色衣と脱捨しすま如何
有るれと論言ある世より安石宣言さる更小の其同ハ殺心修行乃初三
大耶行乃形なれ錦衣玉飾の憚りなり是ハ三宝供養乃信心をこめられ
切位乃法衣なれ慎む頂戴しむるをれなりと曰帝理と思召其昔女官ハ
仰しむれどもふとを面く嶋曇弥夫人小斯と言上り夫人歡喜斜なり玉
色乃錦乃法衣蜀江乃錦の袈裟紺繡蘭共乃卧具等を女官小齋し
如来小献りし是を布施乃初より波梨舍耶城乃好客夫人叱那瑠城乃芙
蓉夫人其他鹿野瞿陀弥乃二新宮及び宮中乃女官吾もくと三宝結縁乃為
かひく小色々の法衣袈裟卧具を緒羅漢緒比丘緒比丘尼小献せしむる
是を見玉ひ徒弟小向く向むく法衣乃修行の更衣真行あり真行衣あり

法衣乃修行の更衣真行あり

真行衣のあをを衣真行のあをを因妄不衣の因奈何舍利弗答て曰水月自
然なり雲無心小して山乃岫を出るが如し世尊亦向むく施主乃厚息喜悦とれ
を真倒謝せむを鬼畜小ひく迦葉答て曰切德崑崙乃如罪福無量なり
如来亦向むく世間出世の道理を察する更奈何目連答て曰無手人無舌
を叮く無舌却く其科を結る空魂舍利と世尊歡喜しむひ善哉と功位不
可説なり因縁不可思議なりと賞譽し小今乃世僧徒小國王より勅衣を
更更其権与かりと也斯く世尊宮中在り諸善萬行乃切德附屬の
説法を乃更更七日小く王殿を辞し切利天正寺へを回りむひと

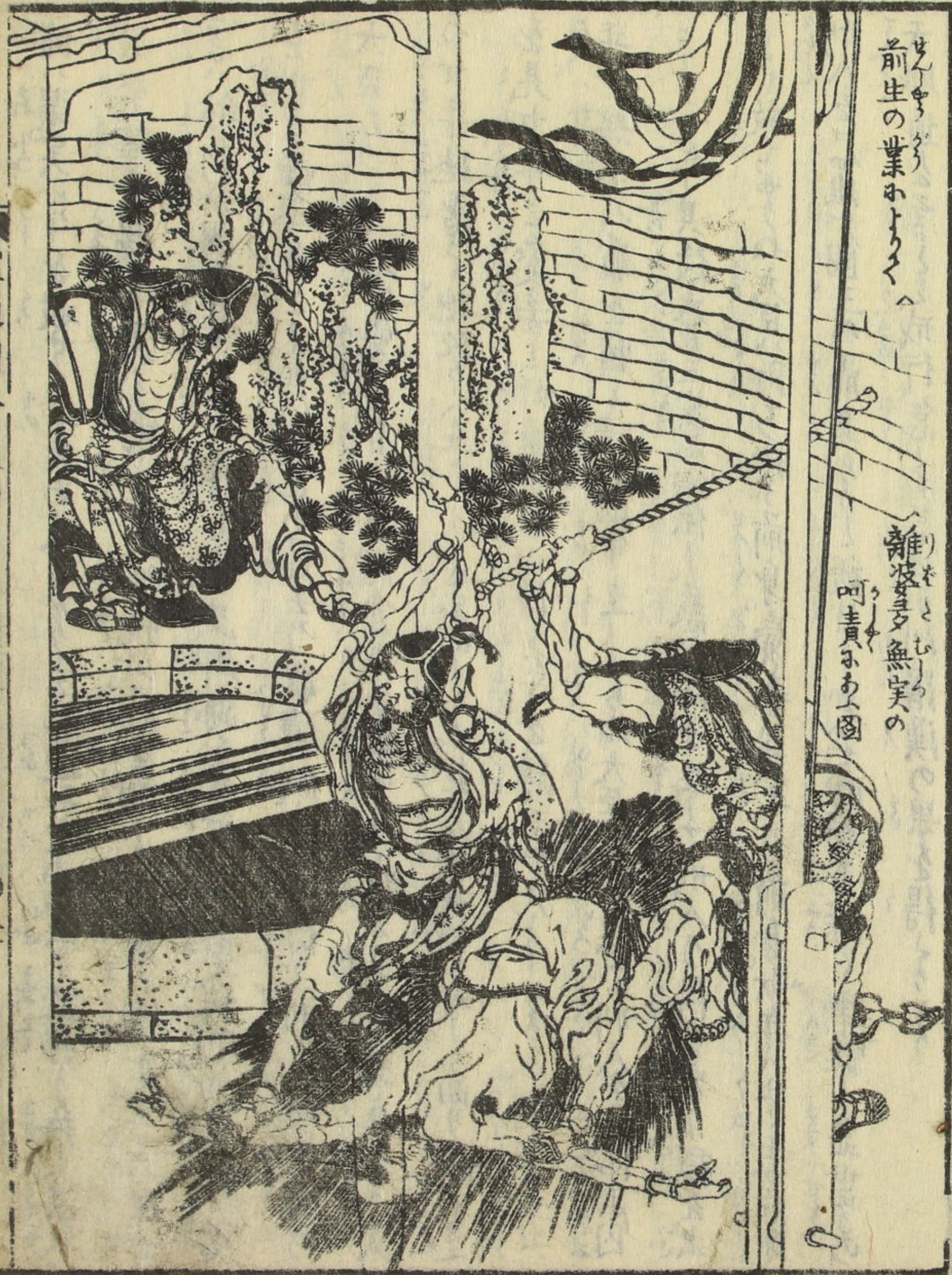
離婆多因無失囚獄中

茲小尸羅摩國乃人小離婆多一人者あり天性穎悟總明小く仙法を學び
神通を得りが教尊世小出む小諸國を周遊して一切衆生乃為小緒の經論と
説小を聽まると深く佛法小皈依し仙道を捨り世尊の徒弟となりたる小

或阿如来離婆多小向く曰你前生中く人の説言を信し無実乃科を以て人を
困り悪因いよ滅せむ故郷へ回く阿羅漢の行を乃罪障を果く後予
門小来れよと教示し小を離婆多佛命を領掌く尸羅摩國へ回り廣脇山
と深山小入り草廬を結び穀食を斷菓を喰ひ水を飲り阿羅漢の行を
かると一歳余小及ぶも奇特なりとれを此心中小退屈を生じ身を
顧り小木蘭捺乃布衣垢付破れり是小依り法衣を脱で綴補ひ木連樹と
以木乃枝を伐り是を剪束し其煮汁を以て法服を染樹の枝小掛り日小乾
り乾も亦深く日小乾數日如斯く稍戒行を怠りたり然る小此廣脇山乃林麓
小牛成鬻り市有る小一日頭の黄牛如何と鼻緒解り山上遥小逃
れを牛至心慌て其所よ這所よと尋登小一人の比丘僧草堂折りけり庵
小座し居り牛至喘々まき看如何道人今這路へ頭乃黄牛奔来り
何其の方へ逃往ひし知むと教むと向離婆多素り牛の来り成るを

只ちてと各牛主大糸縛り。這路をて他も逃往なれ路もあつた。何
 方へ往くと四方を見廻さふ。遠の樹上小黄牛乃皮と覺れた物を曝した。其
 於て一点の疑心を生じ。離婆多が盧乃辺をなれ。二箇の昔小血乃如き汁を
 亦傍の鋼刀あり其側小白た骨の如た物を許す捨散せり。牛主是を口々益
 疑ひ諸ハ這僧我が牛を殺し皮を剥ぎ樹上曝し且其肉を喰ふとあつた
 と。再三再四牛の行方を推問し止む離婆多其戒行の妨をなすと成大い
 怒り。你匹夫先刺し我が不知と云ふ猶志と云く一大妻の戒行を妨る何
 更にと厲声叱れを牛主其勢小怖口口拍で山を下り。數多の市人小向
 山中我が牛を殺せし賊僧ありと告る小を市人們前後の思慮も及ぶ。然
 らば掘掘國王小附よと。衆人荷擔し舟小山上池上り有無の論小も及ぶと
 離婆多を捉り縛りおが曳下り國王の廳へ引出る小を國王離婆多を廳前
 小曳居させ你僧徒の身と云く何ぞ牛を盗し刺し切害と云く其肉を喰ふと

と糾問ある離婆多白貧道阿羅漢の戒行を修く他を顧の違を。是も敢
 て牛成りんと増く牛を殺し肉を契如た破戒無慚の事成り。小久や曾て跡形
 乃の証言なり。願くは大王明小察し貧道が罪を免し。おへと陳謝をなれ。國王
 敢て許さむ。你已小牛の皮を剥ぎ樹上晒し血を絞り骨を捨る。澄迹ある小
 猶安結を吐く陳どもと云く。獄吏小命と云く百杖鞭撃せ。嚴く獄中小囚を
 離婆多是より無失科小依り。牢獄小般系を。更七年心中小如来の金言乃違
 ざる戒感し身ハ桎梏ふと云れ。獄中小在る小一心を廣脇山小通ひく阿羅漢の
 戒行を止れと云く。或阿國王牢獄の辺を通れ。小離婆多獄中小數
 て曰。噫世々曾て我が因位の昔無実の科を以て人を困り罪業滅せ。と云
 け果と云く。我量と云く牛主が証言小遭法衣を染る。樹小乾しを牛の皮と云れ
 木連樹の剪けを牛血と云く。其煮滓を牛骨とせし。獄中小般系が更已む七
 年後未だ罪障消滅の期至と云く。と云く。独言を國王使使て哀憐を生



前生の業かよるく

離れ多魚実の
呵責かゝる図

尺地圖書卷四



秋池圖書卷四
衣と凍く離れ多
福を穢と図

尺地圖書卷四

諸ハ渠実小牛を殺セリ者ハあふりたりと。遂ハ宰成出テ桎梏を解シ法衣
袈裟等を賜ケリ。離波多夫大ノ悦ビ。戸羅大國を立其頃世
ヲハ鉢利奈國不在。法を統ス。使御跡を慕ク其國。到テ如來ノ拜謁
を世々離波多を見玉ハ。你ハ已過去ノ罪障滅シたり。你ハ前生ハ鷄野國ノ
大臣ナリ。一人ノ愛妻有シ。或河倉率小眩暈。疾を生テ。絶死セシ。人
ノ女年弛著ク抱テ。左右生面。然所。大臣外。回リ来。是
を見。女年と愛妻と奸通。心得。女年を縛テ。刑人トシ。多ク。刑人。是。大
年。無実。罪を憐。暗。助命。マ。大。大臣。是。怒。刑人。獄中。囚
。七。年。其。後。大臣。三。室。小。飯。依。慈。怒。心。を生。刑。人。乃。科。を。宥。獄。を。出
シ。放。チ。チ。大。臣。ハ。即。チ。你。ハ。前。身。愛。妻。ハ。黃。牛。乃。前。身。女。年。ハ。牛。王。乃。前。身
刑。人。之。戸。羅。大。國。王。乃。前。身。乃。と。説。ク。ハ。離。波。多。深。く。慚。愧。ハ。五。世。の
天。眼。通。を。得。テ。戒。行。怠。シ。遂。ハ。阿。羅。漢。の。果。を。得。リ。タリ。

難陀王即位淨飯王崩御

且統伽毘羅城小淨飯王世々の金言小因。難陀太子。讓位。あ。ん。博
士。小。士。口。良。辰。を。擇。セ。緒。國。ノ。小。王。及。ハ。百。司。百。官。を。朝。廷。小。聚。讓。位。ノ。儀
式。先。規。ノ。如。ク。嚴。重。小。備。七。寶。七。流。乃。筵。を。指。与。芽。出。度。即。位。ノ。式。を。こ
々。れ。小。國。乃。王。乃。月。卿。雲。客。難。陀。王。を。拜。賀。皆。萬。歳。を。唱。へ。是。小
依。淨。飯。王。ハ。仙。洞。小。移。リ。任。セ。ハ。心。穩。小。風。月。を。翫。ハ。小。樂。を。極。つ。こ
怨。心。生。む。乃。ハ。一。朝。夜。寐。乃。脚。不。例。小。臥。ハ。御。惱。日。小。増。重。テ。世。ハ
々。れ。を。憍。曇。彌。好。容。美。蓉。乃。三。夫。人。之。ハ。更。チ。満。朝。リ。諸。臣。大。小。並。ニ。母
ク。四。天。下。小。名。醫。醫。を。需。リ。召。寄。ク。治。療。小。肺。肝。を。碎。ク。色。を。れ。露。ガ。リ。功
驗。を。も。奏。セ。され。三。夫。人。難。陀。王。乃。御。歎。一。々。乃。夜。病。床。小。侍。病。衣
帶。乃。解。シ。六。寝。食。を。忘。ル。ク。あ。ん。群。臣。日。々。小。頼。之。女。兒。御。容。體。を
又。チ。心。を。痛。メ。法。皇。乃。令。弟。其。露。飯。王。白。露。飯。王。斛。飯。王。等。の。并。

使節を馳御悩乃報たを報さるふと甘露飯白露飯乃両王を淨飯王の
 御悩とせざ大の孩れ取物もとりあへど伽毘羅城へ馳参らる只解飯王のハ
 提婆達多を總言小依る奉さるる。諸も甘露白露乃両王伽毘羅城小
 馳着返小仙洞乃王殿へ侍候し小ひれを淨飯王女官小扶起され病林小整
 座を以兩王小對し宣く。朕又大王乃室位を嗣し心小不仁義を行ひ
 臣下亦忠直なれを國小逆敵なく天下女寧小く。今日ま、枕を泰山の安小
 置已小萬乘の重位を嗣子小譲り難陀王も聰明睿智なれを治世朕が在位
 下りも猶勝り。今登霞ととも更小世小遺念なりとす。小憾らハ朕が子秋さ
 及ハ孫羅睺羅甥阿難可難們を末期小見ざるのそ一乃遺念なり。その今ハ何國
 小在く法を統ふやせと國乃名をいふまふと洞と俱小紹命あ。白露
 飯王曰。世も今王舎城耆闍崛山中小在く説法し。承り。這國ハ路を
 隔る更一千五百余里大王乃御悩且多小逼り小勅使を馳せしも往返數十日

を徑く恐らくハ御終焉小遭ふ。更難久無く如来乃説法中命終小臨で心
 顛倒し心錯乱を多佛果乃妨なりと説ふを願ハ世尊師徒乃更を念し。小
 乃と王鉢穩小弥陀如来乃引接を念とと練り。淨飯王龍顔小涙を
 洒れ。以朕邂逅得が。無上至善の法王如来を子。過去乃福縁薄
 命終乃期小臨。其法顔を見其妙經を聽更を得ざる更よ。猶依々
 悲々しく。渴望乃念。彌增。同小大聖世尊。王舎城乃靈鷲山耆闍崛小
 在く説法を。居小ひる。天眼通を以。淨飯王乃重病。以。渴望の念を
 知覚。以。阿難伽難羅睺羅等小向。曰。又大王御悩且多小迫り臨終。小及
 你们小對面。更を望む。這王舎城と。六迦陀國と。六路を隔。一千有五
 百里。勅使を。其往返。向小命終。小更を憂ひ。予一度大
 願を。一切衆生有縁を度。無縁を勸。一人を漏。さる。小食
 育高恩。又王の渴望を。末期の願を。満。人。や。自余ハ

来の一偈をささるるを本意なく思ふ今如来及び羅睺羅河難伽維其入
乃阿羅漢相見するを得る生前の願を遂げ仰せ願ハ朕を九品
蓮臺に引接しむと合掌し禮拜し世々白君仁澤を四天下に施し且
三宝に皈依し清浄戒行を以て後世必然天上に生を得無比の快樂を
受むると何の疑ひもなれ只睿慮静し心小弥陀佛を祈念し
金色の臂を伸べ御手を淨飯王の額の上に加へ撫ふと三度即ち

諸行無常

是生滅法

生滅々為

寂滅為樂

と四句の偈を唱へ淨飯王這偈をばむと病苦悉く退れ心神忽つ
快樂あり心禪定ふか如く端坐合掌し南無佛々々と三言唱へ心三世
諸佛二十五の薩無虚空子未降しかの音楽を奏し五彩の花を降し將
小此致心妙智出引接し瑞應を現し淨飯王音楽の音小團の龍眼
を阿の虚空を睿覽あり歡喜踊躍しむに忽ちと睡り如く崩脚

一、難陀王より三后宮二新宮女官妹女月御雲客號泣啼哭とあり
城中小僧くむり世尊是を練り制しむに骸を収め七宝七重の棺
小鏡より香を焼花を散り諸羅漢と俱小供養し妙本妻一七且后
玉棺を寶鞏小納り羅睺羅優婆塞阿難可難室鞏乃四隅小後以
昇輿乃官人是を昇輿せしむ釋尊紫磨黄金乃香妙を執
く室鞏の前小立し難陀王甘露飯王白露飯王三后宮二新宮女惠
比丘尼をより三大臣月御雲客般を乃官吏やぐ列を正し供奉せむ
國中の人民老若男女伽毘羅城より切利天正寺まで路上下左右に充
満しさかき赤子の母を喪か如く身を投伏泣叫ぶ声四境と動かし
たり斯く室鞏天正寺小着しむ夕陽山に林麓小香薪を積む玉棺を
置淨火をけく荼毘しむ難陀王及び甘露白露兩王三后宮百司首
官より火の漸々小熾小燃る人々の声を並發て啼泣ありと世々人々

を練いさく曰いは盛衰不定さかすの世よのわづらひ王者みまといふも久ひさく現世まへ小住こぢしむ事こと能あたら
 ずと一度無常むじやう乃すなはち風かぜ不あいひ遭あひ呼こゑ吸いき乃すなはち息いき断き絶つして八や劫ぎやくなる形骸かたちも勿なし
 枯木こぼ乃すなはち如ごとく人々ひと今いま此こゝ火か乃すなはち熾さかちる人々ひと乃すなはち致いたれ熱あつちるも六む慾よく乃すなはち劫ぎやく火か是こゝ
 りも猶熾さかちる身みを焦こす事こと甚こゝろし故ゆゑ小こ萬ま變へんを抛なげ佛ぶつ道だう小こ入い水すゐ生死しじ
 乃すなはち苦くる累るいを離はなれと説と諭ごし事こと程ほど乃すなはち茶毘ちあひ畢まれ乃すなはち燈とうを聖せい骨こつを拾ひろひ
 黄金こゝろ乃すなはち函はこ不あいひ収おさめ夕陽ゆふやう山やまなる耶や耶や夫人ふじん乃すなはち墳つみとたし今いま埋ま葬さうし乃すなはち其その上うへ
 十三層じゅうさんじやう乃すなはち寶塔ほうたつを建た釋尊しやくそん緒羅漢じゆらんと俱とも小こ塔たつ廟ぼうを供く養やうし乃すなはち其その中なか
 正ただ覺かく眞ま正ただ乃すなはち如來にょらい自みづか己みづか供く養やうし乃すなはち其その中なか三さん世ぜ乃すなはち緒佛じゆつ薩さつ垂しも未な降かり
 故ゆゑ花はなを降くだり音樂いんがくを奏そうして是こゝを和わめ乃すなはち此こゝ功こう力りき乃すなはち淨じやう飯はん大だい王わうの靈りやう
 兜率たうそつ天てん乃すなはち生な成じやう受じゆむ人ひと更さら疑ぎ乃すなはち上下じやうげ隨ずい喜き乃すなはち洞どうを流ながすも

釋迦如來御一代國會卷四畢

